

## 合併しない町宣言・矢祭町 ～小さな町の大きな実験～

矢祭町前町長  
根本 良一

根本良一（ねもと りょういち）

1937年福島県矢祭町生まれ。1983年矢祭町長に就任（2007年4月まで連続6期）。矢祭観光協会会長（1983年から2004年4月）、東白川地方町村会長（89年5月から91年4月）、福島県町村会副会長（89年5月から91年5月）、東白川地方町村会長（96年8月から99年4月）。2001年10月、国の平成の大合併に反対して「市町村合併をしない矢祭町宣言」をして、全国的に注目された。小規模自治体の中でも特異な存在として知られる。

### はじめに～キラリと光る自治体～

富野 皆さん、こんにちは。一言、私の方からご紹介をかねて、今日の趣旨をお話したいと思います。根本さんとお会いするのは初めてなんです。ずっと会いたいと思っていて、やっとここで会えることができました。さっき話をしていて、「やっぱり会えてよかった」という思いです。私も一市民から、米軍住宅問題で市長になりまして、国と戦うことだけではなく、市民の皆さんと、町をどうしていったらいいか、一生懸命やらせてもらって、その中でいろんなことがあったわけです。根本さんは大変有名な方ですから、皆さん、一定の経緯はご理解されていると思います。今日の話で、その中身を聴いていただくことになるわけですが、第一に地方分権一括法が2000年に施行されました。その流れの中で、分権をする以上、国は、自治体に合併して力をつけなさいと言ったわけです。これについては単に政府が言っただけではなく、ほとんどの研究者、学者を含めて「合併」ということを金科玉条のように進めていた。この時、

根本さんはそれに対して敢然と、小規模自治体、「キラリと光る小さな自治体」というコンセプトを掲げて、平成13（2001）年、合併の流れができていの中で敢然と戦ったのです。これは非常に重要なことだったと思います。

自治というのは何が大事かというと、多様性とか自主性とか、自らつくっていくことです。国から流れてきたから従って、決められたことだから仕方がないということが多いわけですが、地方分権をした以上、自治体は自らの判断と自らの意思で自治形成をしていく、そのことが結果として豊かな自治をつくり出していくということを、全国に衝撃的な形で示されたということですね。これは本当に感銘を受けたところであります。

それに至るまでにはいろんな思いがあったでしょうし、その後も全国の大きな流れの中で、自立を保って改革をしていかれた。議員の報酬を定額ではなく、勤務状態にあわせて払うということも含めて、全国で相当話題になったことでありますが、自立を果たすためには、いかに行政としてしっかりと進めて

いくつか、行政だけではなく、それを町民、住民の皆さんとともにつくっていくか。そして、それに対して、最終的に責任を負うのは町長であるという、強い意思を明確にしながらおやりになっていました。本当にお会いしたいと思いながら、今までお会いできなかったのですが、私としては、その部分は明確にメッセージとして受け止めさせていただいたわけです。今日お会いして、そのところはまさに私の思っていた通りでしたし、私が市長をやり、その後、地方自治の研究者として自治のあり方を考える中で、いろいろ模索してきたことが、根本さんという人格として体现されているな、と改めて思ったわけであります。

皆さんは地方自治についていろいろな思いを持っておられ、勉強していらっしゃるわけですが、地方自治は一人ひとりの思いの結晶だということ、そして一人ひとりが、その思いをきちっと表現していく中で、地域のリーダーシップの責任を明確にしながら進めてこられたことが、現在の矢祭町、将来の矢祭町、もっといくと日本の自治の将来についても大きなことだったということを、今回の講演で改めて感じていただければと思います。今日、私は、恋人のような思いで根本さんにお会いしましたが、皆さんにぜひ、そのエッセンスを受け止めていただければありがたいと思います。それでは根本さん、よろしくお願いします。

#### 縁あって、今日、龍谷大学へ

**根本** 皆さん、こんにちは。今、富野先生から過分なお話がありましたけれども、9月初旬に、島根大学の元副学長で、名誉教授で、宍道湖の干拓・淡水化をやめさせた保母武彦

さんという教授がおられるのですが、矢祭町にご縁がありまして、私のところへしょっちゅう来られていたんですね。ある晩、「根本さん、京都へ来ない？」という電話があったんですね。そこで、「京都は見物は2、3度行きましたから結構でございます。でも、京都なら富野先生にはお会いしたいな」と話をしたんですよ、電話でね。すると、「実は富野君、この車に乗ってるんだ」「乗っておったんですか？」という話なんです。それで話がすすみまして、「ああ、行きます、行きます」と今日に至りました。今日、何を話しようかなと思っていたんですが、何もないんですね。指折り数えて、今日のことを、そわそわ待っておった。そして私は今朝、5時半に起きてね、風呂に入りまして、頭をドライヤーで乾かして髭を剃って、6時半くらいに自宅を出て、東北新幹線の白河駅から乗り込んで11時半に参った、という状況なんですよ。

私が「富野先生にお話したいな」と言ったことを、富野先生は隣で聞いておったんですね。私は、先生がいると思いませんから。それはね、民主党が仙谷（由人）大臣を中心に行政刷新会議をやっていますね。大臣としてね。そして事業仕分けという言葉があります。構想日本の加藤（秀樹）さん、私は3、4度会っています。そういうところで、話をせよと言われて仕分けの話をしていますけどね。私は、彼は彼なりに評価をしております。しかし彼が事業仕分けということを言いはじめたのはここ2、3年です。それまで事業仕分けということは言っておりませんね。それは構想日本がいろいろやる中で、それにたどりついたと言えは正しいかと思えますけどね。富野先生が逗子市長の頃の、「今の地方行政で、本来、正職員が担わなければならない仕事は20%でいいのではないか。そ

してあと 80% は、場面、場面によってやれるのではないか」という話を読みましてね、私は目からウロコという感じではなく、非常にびっくりしました。感動いたしました。以来、私の心の中で富野先生は地方自治の神様、私は今でもそう思っています。そして今日、お会いしてね、そういうことを強く思ったということです。

### 町長を辞めたいと思いつつ

私のところは狭い町ですが、役場は千客万来で、役場で本来の仕事をしたなという実感はないんですけどね、町のいろいろな人たちが、子どもを連れてきて、「町長さん、これ、私の孫よ、私の子どもよ、立派でしょう」とかね。「町長さん、私、亭主と離婚しようとしているんよ、どうしたらいいでしょう」とか。そんなのが毎日。ない日はないんですね。私の家から役場は歩いて 1 分半ほどですけどね。8 時半にピタッと行くんですけど、7 時くらいに皆、来るんですよ。「サラ金に追われてどうにもならない。どうしたらいいんでしょう」とか、いろいろ言うてくるんです。それには、銀行を呼びまして、「サラ金から 2000 万円くらい借りているそうだから、私が保証人になるから、あんた、貸してくれ」と。私が言うのと貸さざるをえないんですね。そしてサラ金に全部払ってきてくれ、となる。サラ金からすると、商売妨害だとなりますわね。私はそんなことをやっていたので、「あの根本をやっつけてしまえ」とか思われたりもする。そんな人がいっぱい来るんですわ。

あまり仕事にならないんですが、私はこう思っていますね。大事な、大事な矢祭町のことをどうしようか。これも大事だろうと思

います。同時にお一人おひとりが豊かになっていくことも、幸せになっていくことも、極めて大事だなと。そしてそういうことを見てまいりまして、もう（自分に）一寸の余裕もなく、私も毎日毎日、「今日辞めよう、明日辞めよう」と思わない日はないですね。1 分半で歩いて行けるんですけど、その 1 分半が 1 里くらいに感じるんですよ。「このまま役場に行かずに、どこかに行ってしまいたいな」と、思わない日はないですね。

役場に行きますと、職員が 2、3 人おります。小さな役場です。私の顔を見ると、ギョッとするんですね。最初はなんだろうなと思ったんですけどね、だんだんわかってきました。役場の上に山東矢祭神社というのがあって、杉の大本が 5、6 本あるんですね。彼らは夜に番兵を決めて、「根本良一さん、今晚死ぬ、心臓が止まるように」と願いを込めてね、5 寸クギを打っておったんじゃないかと思うんですね。「なんだ、お前、ギョッとして。お前だな、夕べ、呪いクギを打ったのは。俺の胸にコンコンと響いたけど、まだ俺は死ぬわけにいかないよ」。そういう繰り返しでね、冗談を言いながらやってまいりました。

何を言いたいのかといいますと、首長をやったら辞められないという人が大勢いるんです。本当にいっぱいいるんです。でも私は「もう 1 日も早く辞めたい」と思っていたんです。「こんな辛いことは 1 日も早く辞めたい」。私は、たまたま 45 歳で町長になりましたけど、5 期 24 年間やりまして、「今日はいい日だな」というのは、いくらもないんですね。3、4 日ですね。それほど、「今日はいい日だな」と思う日はないんですね。根本良一町長個人のことではね。町では「よかったな」というのはいっぱいあります。家族もね、私が 45 歳で市長になった時の条件として「お父さ

ん、4年やったら最高だね。もう2年でもいいから辞めましょうよね」という話を娘と家内がしているんですよ。私も一生懸命に後継者を探そうと思った。毎回、逃げられてしまって手も足も出なかったんですね。首長というのは、いいものだなと思うと、町はよくなりません。自治体は決してよくなりません。

そういうことは別にいたしまして、私は平岩弓枝さんという作家が好きですね。私が、かなわないなという女性の中の一人ですね。どうしてかなわないか。私が市長を辞める年の頃、毎日新聞で四百数十回の「孫悟空」という連載（2005年12月14日から06年10月19日まで掲載）が終わりました。私は孫悟空が好きですが、最後のほうに、彼女はこういうことを書いていますね。これを書きたくて彼女は四百数十回連載したのかと私は思ったのであります。「人は登りつめたまま終わる幸せを手にするのは難しい。高みに登れば登るほど失脚はすみやかに訪れる」。私は町長に登りつめたとは思いませんよ。しかしその言葉にハッとします。登りつめたまま終わる人生を手にすることは難しい。人は高みを究めれば究めるほど、失脚は速やかに訪れる。観世音菩薩という男の菩薩さんの言葉を借りて言っています。私も辞めてよかったなと思います。今日、（富野）先生にも聞かれました。「何をしていますか？」「ごろごろしています」。本当に楽しいですね。ええ。

#### みんなでつくる、合併しない宣言

そういうことは別にいたしまして、平成13（2001）年10月31日、私どもの町が「合併しない宣言」をいたしました。最初に私が書いたのは「合併反対決議文」なんです。合

併というものに対する私どもの判断は、メジャー級の判断ではない、オールジャパンではないんですね。「合併しようが、しまいが、それぞれの判断でよろしい」というのが今の地方自治法で、今の憲法ですから。しようがしまいが、それぞれの判断。ところが現実には、総務省、日本の小泉内閣（当時）は（補助金の）元栓を閉めてしまいました。でも、法律はそうでない。そこで、私どもは合併しない、「合併反対決議文」と書いたんですけど、何としても、ここ（反対）のところがひっかかる。合併することもあれば、しないところもある。結論として「合併しない宣言」、職員が考えたんです。このところは。そこは簡単でしょう。合併しないでいいんでないのか。

そして私どもは「合併については勉強会をやりました。いついつの議会で議員提案としてそれだけを議会として拍手をした。」とマスコミに送りまして。当時18名の議員がおりまして「合併しない宣言」を決議した。合併とは何たるかというのは、言わずもがなですよ。そうすると、総務省の合併推進室長の高島茂樹さんという方がいたんですね。立派な方です。その方が、「突然来る」と言われた。その宣言をして、いくらの日もたたないうちに県の方の市町村課長さんから「明日、総務省から室長さんが行くよ」と。

矢祭町始まって以来、いまだかつて中央省庁から直接来るということはないんですね。落成式とかで、ある程度の人に来て、パチンとテープカットをやって、酒を飲んで帰るということはあるけど、招かれざる人が来るということはないんですね。困ったなと思いました。次の日に川手晃さんという副知事、辞めて東京に行きましたが、その方から電話がありました。総務課の担当が「町長さん、電

話だよ」、「面倒だな。いないと言いな」、「いると言ってしまうましたよ」。それで、しょうがない、私、出ました。「何ですか?」と。すると、「町長、今日、高島が行くね、あれ、後輩だ。よく話はしておいたから、思いの丈は十分に述べろ」と。てっきり総務省が行くから、矢祭町が突っ張ると面倒だから「余計なことを言わないで」ということかと思いましたが、そうでないんですね。すごいですな、これは。「ところで知事は、どうだい?」と尋ねました。今朝、定例記者会見があって、総務省から合併の件で矢祭町に行くけど、福島県知事はどう思うんだと質問されて「地方分権ですから、そのことは矢祭町町長の判断でしかるべし」。こういうことを知事が言った。副知事も勢いつきまして、なるほど。私も知事さんも長いつきあいです。それで電話をくれた。ありがたいなと、こう思いますね。そんなにありがたいことはなかったですね。

高島さんが来まして、いろいろしゃべったら、結論はこうなんですね。「これからは高齢化社会ですから、たくさん金がかかります。合併することによってかなりの余財が生まれてくる。その余財を国が取り返すことはしないから」。取り返すことはしないというのは、どういうことだろうと思いますよね。財政力指数が上がれば（補助率が変わるのは）当然ですけど。そここのところを特例法で猶予期間として10年ほどみるのかなと思いました。合併を進めている頃に特例法を眼前にきちんと発表してなかったですから。「ここはこうなります、明日、そこ、こうなります」ですね。「合併しなさい、すればいいよ」。そして国は「金はないよ。でも合併特例法ならば片目を瞑っても貸すよ。そして受け皿（事業費の充当率）95（%）だよ。そのうち

の7割が元利償還金だと。全体事業の68%くらいはタダでやるよ」。そんな事業は、高額補助金事業はいくらでもあるんですよ、実はね。何をつくってもいい。ごみ処理をつくってもいい。ごみ処理はいくら税金もらっても、3、4割ですから。そういうことなんですね。

おかしいなと思ったんですけどね。いろいろ聞きましたら「金がないんだ」と。そこでしかるべき時のために合併は必要だと。「ごもっともでございます。ほんとにごもっともでございます。ただ高島室長さん、財政は努力次第によっては、ある意味で解決できるでしょう」、こういうことは言ったんです。「今日は話を交えることはいたしません。しかし今日、来ていただいたことを深く受け止めまして、私としては地方自治で一生懸命努力をしてみますから」ということでお別れをしたんですね。

#### 議員自ら定数削減

あまり日をおかずに、私どもの地方自治体に総務省から高島さんの部下がたくさん来ました。高島さんは、そう言う人ではなかった。「あの矢祭町は保身のために合併しない宣言をした」と。「保身のために」というと、特別職である、町長、助役、教育長、収入役は、今、条例ではおいていませんが、この人たちが、合併すると16人いたのが4名になります。減員ですね。合併前、100人いたものが大体27～28人になる。だからそれらの経費がゴソッとなくなるから、いいだろうと。単純明快ですね。

当時、財政は680兆円。今、特別会計に隠し金があると言っていますが、特別会計の裏金庫は別にして、特別会計を入れて800兆円

くらいあると言われておった。私の方は、あなたも知っている矢祭町は周辺自治体ですから、合併をすれば、矢祭町という周辺自治体に人が住まなくなる。でも、独立して単独で努力をするならば、ひょっとすると人は住み続けることができるかもしれない。こういう判断なんですね。議員の皆さんも「保身のために」と言われると「いささか違うな」、「じゃ、どうすればいいか」、「議員数を減数しよう」と。18名というのはやはり多いのは多いんですよ。私は「議員の数を減らせ」とか言ったことはない。議員の皆さんはいろいろやって18名を10名に、これも単独で議員提案として出して、いろいろやってみて、臨時議会でただ一つ、この議題を鮮明にするために、これ一つだけをやりました。14名とか、12名とか意見はあったんですが、最終10名に。18人の議員が、です。議長を抜きますから16対1で可決。「合併しない宣言」は満場一致。すばらしいなと、私は思っていましたですね。

#### 住基ネットの不備に立ち向かう

住基ネットというのがありますね、住民基本台帳法の中で。カードで利便性があるという。私は必ずしも全部、新しいものがだめだとは言わない。こういう時代ですから。しかし当時、住基ネット法が法案化された時の国の約束は全く違うんですね。小渕恵三総理大臣（当時）が国会で3回言っております。「住基ネットは、もし漏洩した場合の担保法案をつくってから実施するように」と。可決された時は、ちょうど、国民の関心が薄いんですね。国会で3回決議しているんですが、住基ネット法案の保護法案をつくらないままにOKした。

もう一つはマスコミがね、「これはだめだよ」と言っていたんですが、「言論の自由だけは、そこから外せ」と言われてサッと「それを話は別にしたらいいだろう」と。こうです。もう一つは共産党が合併も住基ネットも一切関心がなかった。私は共産党の議員に「共産党はおかしいのではないかな。普段、トマホークをどうするか、原子力発電をどうするかという議論をしているけど、私もやりますけどね。北太平洋機構条約を、どうするかと言われても、私は政治家でないから、そんなことは、もういい。でも、なんでお前さんのところは、現場のこういう話をしないんだ」と。あの時点での頼りは、住基ネットの問題は共産党くらいしかないんですよ。長野県の田中康夫さんも遅れたんですね、選挙で騒いでおって。合併のことと住基ネットについて、田中さんは私のところに来たんですけど、「知事、遅れたね。住基ネットの話をあなたが知らないというのはおかしいのではないかな」と言うと、知事選で頭がそっちに回っていて遅れたということをしていました。余談になりますが。

私はね、新しいものは皆、だめではないんですね。しかし、いかにも拙速だろうと。韓国はかなり進んでいます。韓国は北朝鮮との熾烈な関係で、どんどんそれをやっている。アメリカは背番号つけて兵役に行くでしょう。いろいろありますけど、決して悪いとは言いませんけど。国会で3回決議して、実行しなかったというのは、住基ネットと米の自由化ですね。米の自由化も、3回国会で決議して、これはしましたね。ですから私どもは「保護法案をつくってもらうことが先だ」ということなんですね。

そうしているうちに矢祭町長が反対している。東京の国立市の上原市長も、杉並区の

山田さんも反対だと。あれはね、「よろしからぬ」というようなことで、いろいろあってね。そこで、「わかりました。私どもも、この国の法律を待っておれないから、私どもがつくれます。そして議会で可決をします」と、条例を作ることにしました。「切断」という文言は使えないんですけど、私どもは法律を知らないふりして条例に入れました。矢祭町住民基本台帳条例ですけどね。住基ネット法案をつくりました。もし危険が迫ったら切断。杉並の山田さんは頭がいいから、それなりの文言をいれるんですが、そんなことではだめだと。

もう一つ、大事なことは、住基ネットを取得することによって不利益を被った場合、情報漏洩とか、不正使用があって不利益を被った場合、矢祭町では裁判の判決を待たずに弁済をいたします。役場へ「こんなことがありました。弁償してください」と言いに来るとタクシー代がかかるから、そういう時は、いち早く職員が私が行って引き取り、弁償しましょうという条例をつくったのでありますが、これはね、総務省を通して、県が間にあって、矢祭町があるわけですから、その分を「県が肩代わりして県が弁償してください」と。あの当時、合併前ですから、90市町村です。そんなことをやったら県は全90市町村に弁償しなくちゃならん。それはとんでもない。でも、こちらは平然として「やらないよ」と。さすがに私の盟友であった川手副知事もね、長年の同志であった知事の佐藤栄佐久さんも呆れ果てて手も出ないんですよ。私はできないこと、無理難題を言いましたから。「やらないよ」「じゃ、あなた、罰せられるよ」「どうぞ罰してください。いくらでもお白州に引き出してください」「磔・獄門になるよ」「望むところでございます。江

戸時代の桜小五郎にでもなれば、私は本望でございます」「あのバカ町長、手も足も出ないな」ということで、市町村課長が、「なんとも参った」と言ったそうですね。総務省から矢の催促ですから。「私の方で、こういう条例をつくれますから、知事がハンコを押さないなら副知事が押しな。福島県副知事川手でいいから押しな」。副知事が、「町長、俺でいいか?」「いいんだ。それで。押しな」と押ししていただきました。

私は24年間、町長をやって、5期の真ん中くらいでしたかね。数百ではきかない、数千の議案を議会に出しました。否決された議案はないんです。ただの一つもない。それは、私は正しいと思って、信じて、裏工作もなく、正面から出しますから。「今度、こういう議会で議案を出しますから、ご協力を」などと言ったことはないんですね。仲間の議員はたくさんそういうことをしますけど、そういう操り方をしなかったんですね。正しいと信ずるものだけを出す。こういうことなんですね。

そして議案ができました。そして議長さんはじめ「ちょっと来てくれないか。こういう議案ね、矢祭町独自の日本一だよ、町名を書くのは」。全部、弁償するというんですから、損害額は。「危険が迫ったら、住基ネットの電源を切断する」と書いた。これは絶対、だめなんですから。でも県の副知事はハンコを押しました。議会に出します。「どうする？ 本音は」「あんた方、何十年も俺とやっているからわかるだろう、本音は」。彼らも悟りがいいんですね。「一人くらい反対しないとだめだよな」。こういうことを言うんですね。議案の議決をしましょう。私はやる気になって出したんですから、それを議員が否決をしたんでは、やりようがないですから。賛成は

一人くらい、いないと困るんですね。操ることになって、独裁政権ですから。今もって、これは接続しておらない。そして接続しない理由を議案に出して、反対討論は「なるほど矢祭町が町民を思う、底う議案としては日本一だ。けれども俺たちは、そのもの自体がいないんだ。そういうものはいないんだ。だから町長、悪いけど反対だよ」という理屈をつくって反対して。私は矢祭町議会三連勝だと思っていますね。

### 財政力をつけるために

「合併しない宣言」をしたら、私が退任する前までに全国から 8000 人くらい視察に来ています。1 自治体から 10 名くらい。町長さんを中心にね。800 の団体組織から。矢のように私に質問をするんです。「あなたのところは財政力指数が 0.2 なのに、なぜそんなわがままを言うんだ。なぜ国の言うことをちゃんとできないんだ。金はどうするんだ」。私は何回も、いい塩梅なことを言ってお茶を濁して、「馬を泉につれていくことはできても、その水をむりに飲ませることはできないよ、そういうのは中国の古い諺（だけの話）でないの。その通りなんだ」と。

いろいろな質問があるんです。「財政力はどうするんだ?」とかですね。そこで、「よしわかった。財政力は頑張ろう。財政力をよくするには税収を上げることが一つ。あとは歳出を切り詰めていくことが一つ。これでやろう。中身は皆さんにお任せする」。職員も大変でございました。私はね、役場の仕事というのはイージーワークでもだめだ、ハードワークの必要はない。ハードワークでもない、イージーワークでもない、メイク・ファスト・スローリーと言ってきた。「ゆっくり

急げ。役場の仕事はゆっくり急げ。止まることをしないで」。そんなことを言ってきたんですが、それを、どうしたか。

一生懸命いろいろやりましたが、結論として、財政力指数が、今、単年度で 0.4 くらいになっています。千円の金を使うのに 200 円くらいしかなかったのが、400 円くらい、ありますね。あと 3、4 年たちますと 0.75 くらいになるようにつくってきた。その推計も、私どもはただ希望的なものではなく、その時の職員の数がこれで、この給料がいくらで、投資的経費がいくらで、この歳入はいくらと全部考えてつくってきた。財政力指数は 0.75 までは若干、伸びるようですが、矢祭町といえども、いくら貧乏な矢祭町でも試算できたんですね。0.75。1000 円の金がほしい時に 750 円まで。国も地方交付税や自治体財政の不均衡を是正する法律はありますが、国はその額を下げてきていますから。私もそこまでやるとは思わなかったですね。交付税を下げることは裁判ものです。その時は、矢祭町は、まなじりを決して国を訴訟しようと。そういうことも真剣になって考えていたんですね。

ところが、四全総（第四次全国総合開発計画）とか五全総（21 世紀の国土のグランドデザイン）とか、その見方によっていろいろなものを下げるんですね。「何を下げるんですか?」と聞くと「地方はわがままでぜいたくだ」と。「何かぜいたくですか?」と尋ねると、「敬老祝い金として 5000 円ずつ支給している」。私どもは 80 歳になった人に支給したんですが、80 歳まで長生きした方は 700 人、800 人おりますけど、その方に 5000 円ずつ支給して、何でこれがわがままなの。どうも気に入らない。しかし「それはだめだよ。それは見直しして、そういうものは交付税の

対象から外せ」と、全然、話にならんです。国ですから、私は逆らってもしょうがない、頑張ろうと思いました。

### 職員と嘱託職員

一番多い時、職員が118名おりました。定数上では120名。仕事の内容によって定数条例を上げてきたんですけれどね。私の前政の時に、あの小さな町で一般会計が45億円くらいありました。そして、職員118名と嘱託職員が34名で合計142名です。私が辞める時、現場を合わせて70名、半分になりました。職員は「報酬」で、嘱託職員は報酬にカウントせずに「物件費」ですね。何回も言ったんですよ、「法律だからしょうがないけど、同じ人間で、その人に払うのに、あなた方は報酬で、嘱託職員は物件費なんだ」。職員はずっと黙っています。「俺たちは正職員なんだ、あいつはたまたま仕事が膨らんで忙しいから頼んただけで、給料は4分の1だ。それがなんで報酬なの。物扱いでいいんだ」というところが腹にあるんだよ。おそろべき職員だとは言わないけど、組織だな、と私は24年間思ってきました。そして嘱託職員は優秀なのを頼んでいる。仕事が忙しいから優秀なのを職員が見つけてくる。それをコマネズミのように使う。自分たちは机の上に足は乗せないけど、タバコを吸って、新聞を見てコーヒーを飲んで。極端な例を言ってるんですよ。

そしていろいろやりましたらね、よそから800も600も団体が来まして「財政力指数が悪い。人間が多い。基幹産業もない。チベット地帯だ。どうするんだ？」と、そういう質問をされて、職員が辛い思いをいたしました。私はとくに案はできているんですけ

ど、ぼつぼつ、職員が「町長さん、こうしましょうよ。職員の数を減らしてもいいよ」「あんた、今、何と言った？」「私たちの数が減ってもいいよ」「あんた、組合の給与対策部長でないか？」。私の家は歩いて1分半ですから、用がなければさっさと帰ります。ハンコを押して、用がなければ家に帰って「用があったら、ここに電話くれ」と。

私は町長の勤務時間を、こう考えました。「町長の勤務時間はその任務の終わる時」。そしてその任務というのは、夜中になって大火災が発生した。小さな村で交通事故の一報が来た。小さな火災でも私は一番乗りですね。それはもう家族も含めて火災のサイレンなど、いつでも習慣になってくるんですね。一番乗りです。私は酒を飲むものですから、自分で運転するのはむりなんです。公用車の運転手がいるんですね。申し訳ないけど、その人に電話して「早く来い」なんていうことでね、一番乗りです、どんな時も。いろいろあるんですよ。工場で、酸欠のところに入って死んでしまったとか。それでも、私は一番乗り。それは私の義務だと思っていますから。その任務の終わる時。「首長はどういう人なんですか？」と聞く人がいます。私は、こう思うんですね。「一芸に秀でざるもの。誰よりも、うまいことを持たないこと」なんですね。

私はあまり地方自治をよく知らないんです。あまりいい話ではないですけど、トイレのところに有斐閣の憲法という本がいっぱいあるんです。5分でも3分でも見ているんだけど、覚えたと思ったらそれをとってしまふ。覚えたと思ったらビリッと破る。そして別のものを見ると、また覚えてないんですね。そういうことをやっていたんですけど、職員は専門ですから、知っていますね。その

人たちが「法律はこうなっていますけど、これ、こうしましょう。そこの条例等を変えましょう」。給与対策部長が「町長が帰ったら集まってガンバローをやろうね」と、やっているんですよ、毎回。私は5時15分までいませんから。お昼前でもいい、来て1時間でもいい、3時でもいい、用がなかったら帰ってしまいます。「すぐそこにいるから電話ください。来ますから」。

給与対策部長がね、組合の幹部が「町長さん、囑託をやめましょう」、「囑託はあなた方が大いばりして、自分が楽をするために頼んだんじゃないの?」、「しかし、このままでは矢祭町は合併しない宣言をして何もしないと、この中身がないものになりますから、私どもは、いろいろな自治体から、九州から北海道まで鼻でせせら笑われたら面目ないから、やります」。「やりな」、「囑託をやめましょう。ただし条件があります」。「なんだい?」、「町長さんはひいきの強い人ですから、自分の好きな人は残すお考えでしょう」。「そうだよ。あれと、あれは途中から正職員になれないので、ここにおくんだよ」。「それが一番悪いです。全部辞めろというなら私たちは全部やります」。「お前さん、言ったな。あの電話の交換手は県から年中、立派だと褒められているんだよ。そんなの、できるか?」、「できる、できないは別にして、皆でやるんです」。「もう一つあるぞ。あの用務員のおばさん、朝7時に来てお湯を沸かして、お前さんたちが朝8時半に来ると、お盆に40も50もお茶を配っている。あんた方、お茶飲んでから仕事をやるがな。本来、家で飲んできて、8時半に始まるんだよ」。「そんなの、知っています」。「トイレはどうするんだ。トレイの掃除は」。「トイレも私たちが掃除をいたします」。「お前さんできるのか、そんな

こと」。「やります」。「本当だな」。

助役と教育長と総務課長を呼んで「トイレ掃除までやるというんだ。どうする?」、「びっくりしました」。「それではわかった、助役さん、まず隼より始めよ。俺はやらないよ。できないんだから。やればできるかもしれないからやってくれ、試してくれ。俺、嫌だからね、投げた」。一抜けしました。助役さん、今の町長さんは立派だ。やりました。そのうちに教育長、総務課長、二人くらいがくっついてローテーションを組んで。それが最初の日にテレビに出るんですね。「矢祭町役場職員、筆頭役、トイレ掃除」と。3、4人来て水をじゃんじゃん撒いてモップをやっているのが出るんですね。NHKとか民放で。大きな反響ですよ。たいしことはないんですけど、そんなことが珍しい。

そうしましたら「次は俺だね、次は俺だよ」。テレビに出ることはすばらしいんですね。「立派だ、立派だ」とおだてられますから、何とかも木に登る、ですね。そういうことを進めていきましたら、職員の給与が十何億あったのが6億になりました。一方で、税収が4億くらいしかなかった。これは企業誘致が好調で、それが4億くらい増えて、8、9億いくらになりました。財政が豊かになって、以前は千円使うところが200円しかなくて、あとは交付税でもらっていたのが、450円くらいになりまして、だんだん上がってきました。税収が上がりますと、上がった分の75%は交付税をカットされるわけです。たとえば今年は去年に比べて税収が1億上がった。そうすると7500万円は次の年の交付税からカットされるというルールですけど、25%は自主財源としてある。だんだんよくなりましたね。ただ金がたまって楽になったらいいのか、というと、そういう問題ではない

と思うんですね。

### 矢祭の未来をはぐくむ

皆で努力してきた時の矢祭町は、どうするんだというのが一番大事だと思います。その時に何をするか。子どもを育てないとならん。元気な声が聞こえる子どもたちをつくろうということで、3人産んだら100万円、4人産んだら150万円、5人産んだら200万円の一時金です（矢祭町すこやか赤ちゃん誕生祝金）。

反響を呼びまして、第3子を産んだ時にテレビが皆、来まして、私も行って子どもさんを抱き上げて、頭を撫でて、残る二人も撫でて、「お母さん、あなたはでかしたな」と。テレビに映りまして、皆、喜びました。100万円ですよ。それから、1週間ほど経ちまして電話がきまして「町長さん、この間、マスコミに採り上げてもらってありがとうございます。しかし夕べ、お父さんと、よく話したんだけど、これからこの子どもたち3人をどうして育てていくかが大変だ。だからこれは町長さんに言って、何とかいい方法を考えてもらいたい」。どうしたらいいんだと聞きましたところ、親は「0歳児を預けて勤めに出たい。しかし保育所の料金が0歳児4万円、2、3歳児が3万円。3人預けると勤めて取ってきた金より、余計かかる」「わかった。タダというわけにはいかないけど、安くしたらいいんだな」。矢祭町の保育料は今、0歳、1歳が1万1000円くらいですね。よその自治体は4、5万とっています。調べてください。2、3歳は9000円くらいです。3人分と1人分が釣り合う。もう一つは、「保育所に子どもを預けて勤めにいくんだけど、保育所が8時半開所では会社は遅刻なんです」。

「それもわかったよ」。これは今、7時半から6時45分まで、保育所も幼稚園や役場もやっています。朝7時半になると子どもさん3人預けて会社に行っても遅刻しない。会社から帰ってきて、スーパーで買い物をして帰って、子どもを受け取りにいつでも大丈夫だと。こういうことなんですね。3人分で一人分ですから。

これはなぜかと言いますと、職員の数を減らしながら、皆で努力をしながら、紙を裏返しにしてコピーをやりながら、お昼休みに電気を消しながら、1億円節約しました。私はそんなことは言いませんよ。「節約して電気を消せ」とか「紙の裏にコピーをしろ」とか私が言う話でないもの。総務課長がやればいい話だ。自らが下の方からやろうと。それに、職員の報酬が5億円くらい安くなりました。企業誘致をいたしまして4億くらい入りましたから、金はあるんですから、そのまま使わないで借金だけ払っていると、札冷えしてしまうよ、と言うんです。それでは、どういう町をつくるんだということをやろうと。合併しなかったために、矢祭町はガス料金はどこよりも安く、水道料金もどこよりも安い。24年間上げませんでしたから。町営住宅の入居料も24年間上げなかった。公約でしたから。そのように料金がどこよりも安いんだから、素晴らしいことだと思うんですね。空気はタダです。あとは皆、金がかかります。給食費も保育所、小学校は150日ですから、皆、大体、300円。中学生を200円にしました。高校生の通学費も一定補助しています。

今頃、民主党さんが子育てで、ああだの、こうだのと、金くれるよというのを言っていますが、私の方は金をくれるというのはだめだと思うんですね。4兆円もあれば足りるというのは、だめだと思うんですね。誰の金だ。

国民の税金だ。だめだと思うんですね。各種料金を下げていくことの方が公平だと思うんですね。選挙で当選するために、政権をとるためにマニュアルをつくっても、政権交代のためには必要だと思いますけれども、しかし皆さんも、あのマニフェストを全部賛成で民主党に投票したのではないだろうと思うんですね。308 議席です。あまりにも長い政権が国民を踏みにじってきた。国民の立場がないがしろにした。もう国民は目一杯のところまで不満がきていた。これは変えなくちゃ。これが一番だと思うんです。マニフェストは言ったんですけど、改めるに憚ることなかれで、鳩山さんが、「実際、こうだったからできません」と言っても、国民はノーと言いませんよね。私は、そう思います。

#### 未来のイメージにあうプランを

矢祭町は、そういう思いをしながら職員の数減らしながら、皆、努力をして、イージーワークでもない、ハードワークでもない、メイク・ファスト・スローリーだと。こう言いながらやってきておって、一番は先に見えるものをちゃんと示してやらないといけない。皆さん、努力をすれば矢祭町は、お一人おひとりにも、皆さんの子どもたちにも「こうなるんだよ」ということを示すことが大事だと思う。

マスター・イメージと言いますね。マスター・イメージ、大きな宇宙船を矢祭町の上空に上げまして。その下にマスタープランをつくって、マスタープランは現実的なものですから、それを全部実現してマスター・イメージに近づける。そういうことは大事だと思います。あの小さな町ですから、子どもの保育料であるとか、そういうものはいくらやって

も 2、3 億で済むんですよ。何兆円もかからない。矢祭町の人たちは公共料金が安いところに住んでいるんですけど、「自分たちは、俺たちは料金が安くて、おかげさんで生活が楽ですわ」ということは一言も言わない。たったの一言も言わない。私はそれが正しいと思うんですね。政治というのは「こうしてやったから、あなた方は豊かなんだよ」ということを実感させるということは正しくないと思います。空気を吸って生きているように、その場で得るということが正しい。

いろいろやってまいりました。まず分配所得があります。全自治体の総出荷額、農業から工業をひくくめたものを、町民一人あたりに割った分配所得は、矢祭町は上から 6、7 番目です。私どもの下に郡山市。いわき市や福島市などは、ずっと下ですね。私どもの上はどういう町があるかと言いますと、原発立地地域、原子力発電所のあるところ。危険と取引をしてね、電源交付金がゴソッときますから。私どもは町の役場の人たちが努力をして 7 番目になりました。現実にはこうした町の 5 つをとると 2 番目です。分配所得が以前は 80 番目だったんですけど。同時に県民所得も、一人あたりの県の平均を 100 として、私どもが 118 くらいになっています。それは 7 番。町民は少しずつ豊かになっている。分配所得が 170 万くらいあったのが、370 万になりました。そういう状況でそこまできた。

そうやって「どういう矢祭町を今後つくるんですか？」ということですね。それは各種料金も安い、税金も安いということ、地方自治法を直しながらつくっていくことは正しいと思うんですね。そういうことをやりましたが、最後の最後、大都市の議員、東京都議会議員はこっちにおきましょう。年俸

2000万円の人たちは。矢祭町が、いくらよくなっても、住民所得は一人300万くらいですよ。役場の職員は平均すると、何もかもひっくるめて800万円くらいになる。退職金とか入れて、町民の税金で払う。それはいいんですけど、こういう時ですから、議員も自ら日当制にいたしました。これは議会での議決事項で議員も賛成しました。私が辞めたすぐ後に皆でつくりました。

### 新町長と議会

現町長がいます。私がいた時に助役さんで、彼に託しましたけどね。一生懸命、頑張っています。しかし、よく、議員さんにやつつけられるんですね。何かいいことを提案しようとする「反対」。5対4なんです。10人の議員で議長が一人ですから。この議員報酬の日当制についても賛成は4で、金をほしいというのが5なんですね。これはなかなか容易でない。鳥取県知事だった片山善博さんも、8年後、12年後には、日当制の議会は少しずつ増えるよと言っています。ほとんどの議会は夜やります。昼間もやりますけど。お勤めの方も勤めながら議会に参加するチャンスを与えようと、夜の議会をやっています。円卓の議会にしたんですよ。高いところではなくて。敵と味方ではなく対面でやる。ディベート方式ですね、議論ができるように。でも、私が辞めたら、議長は、一段高い、二段高いところにいてやるんだと。町長は一段低いところでしゃべれ。議員はそっちにいて、賛成か、反対か言っていればいいんだと。大工さんに言って張り替えて直してしまっただけですね。もったいない、300万円もかけて直して直した。困ったな、と思っているんだけど。

問題は町長の志だと。私どもの町長はいい人なんです。しかしその志がね、私心を捨てるかどうか。私は24年間やって、いい評は一つもなかったけれど、ひたすら郷土のため、町民一人ひとりのため、それ以外には何も考えない。自分のことを一切考えない。それはおかしいと言われても信じていますね。そして間違いなかった。そのことを私は誇りに思っています。うちの家内や娘がいくら反対して、町長を辞めろと言っても、私も辞めようとしたけれども、辞めさせてくれなかった、町の人がね。辞めようとしても誰も立ってくれないんですから。24年間、無競争でやってきてね。この次も無競争、「根本さん、あなた一生懸命やってきましたから、またどうぞ、誰も出ませんから」。これは辛い。今度は辞めさせてくれよ。そこで、今の町長、助役さんを説得して「俺で、いいか？」と聞くもので、「俺の倍も、よくできるよ」とね。預けてきました。うれしかった、私は。

### 全部必要？ 役場の仕事

今、仙谷大臣のもとで事業仕分けをやっています。富野先生は日本の草分けなんです。逗子の市長さんをやって、職員は役所の仕事の何割ができるか考えて、そして、あとは民間に渡す。私はじつと富野先生の言うことを聞いていましたから、年中、こうやっていましたからね。「わかった、それでは第二役場をつくろう」ということにしたんですね。第二役場というのは、役場の正職員が70名。どんどん退官して補充をしない。だんだん役場の正職員はいなくなる。これも困る。その時にその分をどこでやるか。一人の職員が、1年中、役場にいなくてもいい。こういうことです。38年間、大卒、60歳定年です。

42年間は高卒。役場は、じっと何もしないでいても誰も罰金をとらない。言われたことだけやっていたら誰も罰金とはとらない。給料はちゃんと入ってくる。1cmも狂いなく上がってくる。一生懸命働いても、働かなくても。課長とか係長は違ってきますが、あとは全然変わらない。10分の1しか働かない人も、10倍働く人も、給料も条件も同じ。悪いことさえしなければいい。弁当持っていて食べて、じっと5時15分になるのを待って、弁当を持って帰ってくれば誰も何もいわん。そういうことではだめだろうと。

よその町では財政が豊かでない、大変だ、交付税が引き下げられる。役場の職員の給料を安くしよう。特別職は何%カットしよう。職員も何%カットしようとしていますよね、全国で。私はそれを一切やってはならないと思っています。職員と町という一つの姿と債務負担行為だと思うんですね。つまり、あらかじめ支払いを義務づけられた経費です。就職する時に矢祭町職員の給与等に関する条例がある。どこにもある。何号俸はいくら、初任給はいくら、と。「わたり」というのは違法行為になりますがね。「わたり」というのは、昇格するしないにかかわらず、年功によって昇給する制度です。あれは何十年もやると違法行為でなくなるんですね。今、民主党は「わたり」をなくそうしていますが、できますか。

明治維新の最大の遺産は唯一、最大の遺産は官僚制度を肥大化したことですね。司馬遼太郎さんが言っていますね。官僚制を残した。しかし一夜にして文明開化しようとする時には官僚制度がないとできなかったんです。封建社会ですからね。官僚制度は悪い、あんなのをやめようといっていますけど、やめられない。私どもは「悪い」ではなく、「効

率的にするにはどうしたらいいか」が問題ですね。職員の給与は平均給与からみると町民の3倍だけど、まけろと言わなかった。役場に就職する時、これだけの給料はあげる、と条例で約束しているわけですから、たがい、まけろというのはおかしいのではないですか。それはだめだと。

そこで第二役場をつくろうと。役場の課長級が定年で辞めていきますから、50万円とっていたのが15万の嘱託職員の給与でお礼奉公してくれと。雇用制度で、退職しても2年間延長して雇ってもいいという条例を全国各地でつくりましたね。しかし、矢祭町だけはつくりませんでした。つくる必要がない。昨日まで課長として部下に命令していた。それがね、3月31日で辞めて4月1日から再雇用制度で雇用されたら、月15万円で、「今日は犬の死骸を拾ってこい」とか、「農地交渉にいったこい」とか、「交通番兵に立て」とか、そんなこと、あなた方、やりたくないでしょう。昨日の部下に命令されて。それはないよ。そこで第二役場をつくるから、もう一度、力を出してくれと。

今、仙谷大臣のもとで、構想日本の加藤秀樹さんがやろうとしていますけどね。こちらは、とくにやってるんですね。役場の仕事が10あるとすれば、正職員が担うものは2割でいい。でも、私どもは大体半分くらいかな、半分くらいは民間でいいだろうと。単純な仕事ですから。しかしそこはセーフティネットをかけましょう。セーフティネットといえば、こういうことですよ。

一人でいいところを3人半でやるというのは、大体の普通の公務員のあり方ですね。高速道路を使って、ある町にきました。私の前は、どうも役場の車だな、教育委員会のライトバンが走っていました。3名乗っている。

次の日、教育長さんに聞きました。「教育長さんは昨日、県に行きましたか」「あ、行きましたよ」「何の用ですか」「移動図書館があって、1カ月、本を借りたんです」「どのくらい借りたの」「ダンボール3つだよ」「それを昨日、返しにいったの」「そうです」「ダンボール3つを返しにいくのに、3人必要かい?」「町長さん、本は重いんですよ」「一人1箱で3人か。台車で何回も運んだらだめなの?」「そんなことを役場の職員はしませんよ」「そうだよな」。一人一日3万5000円かかるんですね。出勤日数で総額を割ると。平均ですよ。課長級になると1日4万ちょっとになる。これは退職金も医療保険も家族手当も通勤手当も全部入っていますけど、全部、町民の税金ですから。それをプールして割ると、1日、課長以上は4万227円。年間の出勤日数を総額で割ると、です。仮に3万円にしても、人件費10万円ですね。出張手当をみて2万円。ガソリン代等々で13万円になりますね。ダンボール3つ返すのに。ダンボールの本が買えてしまうんですよ、それくらいあれば。「一人でだめだったの?」「重いです」「そうかい」「ところで佐川急便という手はなかったの?」。黙して語らず。佐川急便なら1箱1500円で3箱4000円くらいで行ってしまう。13万円かけなくてもね。

自分で稼いだ金でないから、税金だから、私が節約したって、だめなのよ。私の手柄にもならん。もう一つは儲けなくてもいい職業ほど楽なことはないということね。覚えてください。稼がなくてもいい職業、悪いとは言っていない。私は、それを何とかしよう、町民の税金だから有効に、と。町民の皆さん、ありがとうございます。税金で食っているのは政治家と公務員だけです。あとは稼いで税金を納める。悪いとは言わない。私も24年

間もらったんですから。しかし、感謝をもって、どうやって働くか。こうしよう、ああしよう、これとこれは民間に渡そう、専門グループをつくってやろうということなんですね。第二役場というのは、私の発明です。全国にどこにもない。40年間も給料もらっているんだから、お礼奉公でどうだ。タダではないよ。民間の人たちの平均の給料くらいで、どうだ。こういうことなんですね。

「一般行政」と「福祉」と「教育」と3つに分けたら、そこへ役場の職員も入る。一般公募で民間からも入る。3人ずつ入れますよ。自分で、それを議員として決めるんだから、反対はしないですよ。1年以内につくりましょう。でもこれはね、今の町長に対する私の一番の不満なんです。熱がなかった。任せからつくってくれや。半年たっても、1年たっても、できないんですよ。志がない。魂がない。何とかしてやりたいという魂がない。

### 生まれた町に誇りを

私が町長を24年間やってきて、ひたすら思うことは、矢祭町という町はね、かつては「ヤサイ町」と呼ばれたりして、「ヤマツリ町」と読んでくれない。「どこですか?」と聞かされると、「茨城県と福島県の境にある福島県側です」。そう説明してもわからない。「茨城県の大子町に袋田の滝という有名な滝があります」。これはわかるんですね。「その隣です」「わかりました」。今、「大子町はどこですか」「あの有名な矢祭町の隣です」。そして矢祭町を出て東京に行った人たちが、一番誇りに思うのは「出身はどこですか」「矢祭町です」「あの矢祭町ね。あのヘンテコリンな町長さんがいる」。

国に逆らってはいないんですよ。合法的にやっているんですから。「やあ、立派にやっているそうだね」ということになります。ある人が北海道へ夫婦で旅行に行きます。私に土産を買って送ってくれます。鎌倉あたりに住んでいる矢祭町出身の人ですね。「住所を書いてください」と言われて「福島県矢祭町」と書くと、「ああ、あの矢祭町ね」となって、それはうれしいよ、と。私もそうだと思います。自分の生まれた故郷に誇りが持てないような、小さくなっているような、「どこですか?」「ヤサイ町?」「矢祭町というんだ」と延々と説明しなくちゃならないのは。

奥州戦争、八幡太郎義家と父頼義、軍神といわれた親子が安倍一族を撃つために岩手県に赴いた。藤原一族と続きますけどね。ようやく念願を果たしたということは、例のサントリーの佐治敬三（当時サントリー社長）が熊襲などということを言いました、奥州をね。しかし結局、軍神の人たちが、5、6年もかかってやっと権謀術数で勝利したということは、いかに強かったか。安倍宗任、貞任が、いかに強かったか。

安倍貞任が流刑されて、九州に島流しになって、その子孫が安倍総理大臣だと。彼は東北に行くと、そう言うんです。しかし一説によると、安倍貞任は首を斬られて、5寸クギでうたれた。それが正しいんだろうけど、貞任でなくても、何らかの人たちは排除されたんですね。戦いに強いということは教養があるということなんですね。いかに教養があるか。安倍一族は教養があった。その安倍一族に勝利をした八幡太郎義家・頼家親子が矢祭町の風光明媚なところに来て弓矢を奉納してお祭りをやった。ですから矢祭なんですね。私どもの町は。そういうところなんですけど。ごく平凡な町なんですけど、「ヤサイ

町」としか呼ばれなかった。歴史をたどって奥州戦争の時の矢祭町が蘇って全国の人が矢祭町と呼んでくれる。

#### 矢祭のいま～4つ進んで3つ下がる～

幼稚園も保育所も安い方がいい。給食費も安い方がいい。しかし、それだけではないと思うんですね。最近、議員が俺たちは「本当はちゃんと報酬をもらわないといけないのに、議員様なのに、日当など土方みたいなものをもらって面白くねえ。ことごとく反対してやる」と、町長さんがいろいろな意見を出すと、ことごとく反対する。「それ見たことか。お前たちは給与をもらって俺たちは日当だ」と。日当だってね、1日3万円くらい払っているんですよ。安くないでしょう。朝日新聞にも何回も書きましたが。

目に見える議員活動は日当で、いろいろな目に見えない、近所の人たちに、「議員さん、あそこの道路、直してください。あの橋、どうするの。下水たまっている」という相談を受けるいろいろなことは、あなた方、社会貢献事業ではだめなの、と思うのです。NPOという言葉を使うと、彼らもカチンときますから、「社会貢献事業」という格の高い名前をいうんですよ。あなたはね、立候補する時に街頭でマイクを握って「私は当選のあかつきには皆さんのために粉骨砕身、一身を投げうって頑張ります」と言ったんでねえの。なぜ、金もらわないとやらないのか。「金もらわないと、だめだよ」と、あなたは言わなかった。おかしいでねえの。この次、立候補するなら、ちゃんと「金をもらわないとやらないよ」と言いな、やるから。どうですか。言うことと、やることと違っては困るんでないですか。国会議員も県議員も市議員も。

「manifestoが、どうであろうと、投票に行かない。若い人は特に行かない。行ったら、行かなくても、誰が通っても同じだろう」って、何を言ってんだ。おれたちがしっかり投票して選んだ議員が、こんなによくやってくれる。俺たちの税金で働いてくれる人たちが代表として、俺たちは誇りに思う。そうすると、投票率が上がりますから、と、私は言うんだけど、どうでしょうか。「なぜに日当制が悪い」「土方みたいだ」「なぜ土方が悪い。土方が悪いという判断はどうなんだ。立派に働いてるんでねえか」ということを言うんです。この頃、議員は誰も寄ってこない。来なくてもいい。私は正しいことを言ってるんだと思うんですね。

今、矢祭町でも「矢祭町自治基本条例」をつくりました。「子どもは国の宝、町の宝ですから、子どもを大事にする町をつくりましょう。日本の国が始まって以来、人口が減少する時代を迎えました。矢祭町はその人口減少に歯止めをかけて人口増につなげよう。地域の発展のために」。前文は私が書きました。それを軸に中身は、こうなんです。「青年、成人、壮年、この人たちは朝から晩まで真っ黒になって働いて税金をちゃんと納めてく

ださい」。文言は違いますが、意味はそうです。「この人たちのために、働き盛りの人のために町の税金は一切使いません。そのかわりあなた方の子どもや孫たちが、すこやかに、すくすくと健康で成長できるようなまちをつくりましょう。そこに金をかけましょう」。

もう一つは、「あなた方の両親や先輩が誰からも敬愛され、尊敬されて長生きできるような町をつくりましょう」。これは私が27年前、立候補した時の一つの公約です。私はその通りやってきましたから、その通りに自治基本条例をつくりました。団塊の世代が過ぎても、職員の採用をせずに、ということをつくりました。途端に採用してしまいました。条例違反だと言われました。それはやり方があるんです。採用しないで、新しい地方自治を、新しい役場の組織を変えようと。そのために第二役場だよ、というようなことでいろいろやってまいりましたが、なかなかうまくいかん。三寒四温、4つ前進して、3つバックして、そういうのを積み重ねて、地方自治は確かなものになるだろうと思います。ご清聴ありがとうございました。

[2009年10月17日]

